

石川県保険医協会主催
原発・いのち・みらいシリーズ講演会 第15回

3.11からの私たちの歩み ～大切なものを見つめて～

お話 千葉 由美 さん

「いわきの初期被曝を追及するママの会」代表

<http://iwakinomama.jugem.jp/>

【千葉由美さんのプロフィール】

福島県いわき市在住。原発事故後、母親同士のコミュニティの必要性を感じ、放射線の測定活動を通じてネットワークを立ち上げる。情報の共有、思いを話す場づくりに力を注ぎながら、子どもを守る体制をつくるために「いわきの初期被曝を追及するママの会」を発足。放射線の測定活動とカフェ活動のふたつのプロジェクトを柱に、大切なものはなにかを問いかけている。

- 放射線の測定活動：「TEAM ママバク 子どもの環境守り隊」 <http://iwakinomama.jugem.jp/?cid=17>
- カフェ活動：「ママ cafe かもみーる」 <https://ameblo.jp/chamomile311/>

裏面に掲載した 千葉由美さんのメッセージ もお読みください。


2018年

6 / 17 [日] 午前 10:00～12:00

無料

申込み必要
(裏面参照)

石川県教育会館 2階 第1会議室 定員 80人

金沢市香林坊1-2-40  なし



ミニレクチャー

当日、以下の石川県保険医協会「原発・いのち・みらいプロジェクト」メンバーによるミニレクチャーもあります。

- <講師>
- 吉田 均 (小児科医、原発の危険から子どもを守る北陸医師の会事務局長)
 - 種市 靖行 (整形外科医、福島県県民健康調査 甲状腺超音波検査 検査者認定医、
原発事故後に福島県から石川県に移住)

3.11からの私たちの歩み～大切なものを見つめて～

6/17 [日] 10:00～12:00 / 石川県教育会館 2階 第1会議室

講師

千葉由美さんからのメッセージ

震災後は、次から次と目の前に問題が差し出され、
それに反応をしなければ 受け入れたこととして、
いとも簡単に流れていってしまうという日々です。

しかし、いとも簡単に流れていく日々がかたちづくる歴史は、
巨大な負の遺産となって、次世代にそれを渡してしまうことになる。
その重大な過ちに気づくことのできないこの社会に育つのは、
福島の子どもだけではありません。

私は、福島で子育てをしている母親という立場ではありますが、
見ている先にあるものは、全体的な問題なのだとも思っています。
避難するかしないかという目の前の選択肢にスポットを当てたとして、
このような社会である限り、どこにも安住の地などないと、そんな風にも感じます。

初期被曝を免れなかったこと、追加被曝を強いられ続けていることについては
被曝の影響を問題視していますが、私の思いとしては
この社会を築いているひとりひとりの生き方、その歩みについて、
根本的なところを見つめて、つながっていきたいというものがあります。

今回の講演会は、放射線の測定活動やカフェ活動について
お伝えすることと共に、共通する問題、特に人権問題について
みなさんと共に考える場となることを願っています。

参加申込書

fax 076—231—5156

切り取らずにそのまま送信してください。
電話やメールでの申し込みも受け付けています。



■ 団体名 _____

■ 氏 名 _____

■ 電話番号 _____

団体名が特になければ
記入不要です

※ 参加証等はありません。定員に達し申し込みを受け付けできない場合等に限り、主催者よりご連絡します。